

【機械・ロボット科3年】原動機の実習を行いました。



令和元年9月12日(木)機械・ロボット科3年生がディーゼルエンジンの特性試験を行いました。ドイツの技術者ディーゼルが発明した内燃機関で、往復ピストンエンジン(レシプロエンジン)です。

ディーゼルエンジンは点火方法が圧縮着火方式で、ピストンによって圧縮加熱した空気に液体燃料を噴射することで着火させ、液体燃料は発火点を越えた圧縮空気内に噴射されるため自己発火します。

単体の熱機関で最も効率に優れる種類のエンジンであり、また軽油・重油などの石油系の他にも広範囲に使用可能であり汎用性が高いエンジンです。

現在、動力源の駆動方式が内燃機関からモーター(電動機)に変わりつつありますが、電源設備がない地域では内燃機関が必要不可欠です。

ポンプ、発電機(外部電源)、建設機械、船舶、航空機、車輛など